

方向性2

市民の具体的な行動につなげる自助・共助への働きかけ

- ・かわさき市民アンケートによると、携帯トイレを3日分以上備蓄している人の割合は32.1%、災害時のトイレの使用方法を知っている人の割合は34.5%であり、啓発が市民に行き届いていない状況となっています。
- ・自らの命は自らが守るという「自助」の考え方を基に、市民一人ひとりの備えの意識を高めるとともに、多様な主体との連携が重要となることから、自助・共助の具体的な行動につなげる取組を実施します。

取組① トイレ対策の啓発強化

携帯トイレの備蓄のほか、災害時におけるトイレの使用方法、使用可否の確認方法、使用済みの携帯トイレの廃棄方法など、市民のトイレに関する意識を一層高めていく啓発活動を、あらゆる機会を捉えて行います。

また、各種防災関連のイベント等において、携帯トイレの使用実演やサンプル配布を行うことで、実際に手に取る機会を設け、家庭内備蓄など市民の具体的な行動につなげていきます。

発災時におけるトイレの使用方法

地震が起きたら…
身の安全を確保の上



まずは
トイレの水を流さない



発災初動期は
携帯トイレの使用
を徹底



携帯トイレの備蓄

1人あたり1日5回分を、最低3日分、できれば7日分以上の備蓄を

3人暮らしだと105個も必要ニャビ！



取組② 災害時のトイレ対応訓練の実施

災害時の衛生的なトイレ環境を確保するため、災害時におけるトイレの運用について、避難所運営マニュアル標準例へ位置付けるとともに、防災訓練等を通じて、避難所における発災当初のトイレ対応の一連の訓練を実施します。また、児童生徒の防災教育の一環として、携帯トイレの使用方法を学ぶ取組など、災害時のトイレ対応の理解を深める取組を実施することで、意識の醸成を図ります。さらに、平時から地域の多様な主体と防災訓練等の場などを通じて関係性を深めることにより、災害時の連携を強化します。

携帯トイレの使い方



便座を上げポリ袋をセットします。



携帯トイレの袋を便座の上からセットします。



使用後に凝固剤を上から振りかけます。
※凝固剤タイプの場合



中の空気をしっかりと抜き、二重袋にし、
普通ごみとして出します。